

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

「三寒四温」を実感する時期だが今年の気温差は激しく、春を待つ心さえ挫けそう。木へんに「春夏秋冬」で椿、櫻、楸、桜と

なる。名は体を表すと云うが、木がたくましい生命力を宿している。と知る事ができる。

今、ウクライナ国内の状況が、多くの手段で情報発信されている。だが現代戦争での情報の真偽は不透明さを増しているような気がしてならない。どの情報も正しくて、どの情報もフェイクなのか、私たちの判断にどの様な影響を及ぼしているか不安でならない。ただ戦火で苦しむ現状がある事も事実だ。ただ見守るばかりではいけない。

「中南米などに伝わる民話。『ぼく、何かできるかも』と一羽のハチドリが飛び立った。ハチドリは川の水を口に含むと火にまいた。何度か何度も往復するハチドリに他の者は言った。『君は小さくて、一滴ずつしか運べない。火は消えない

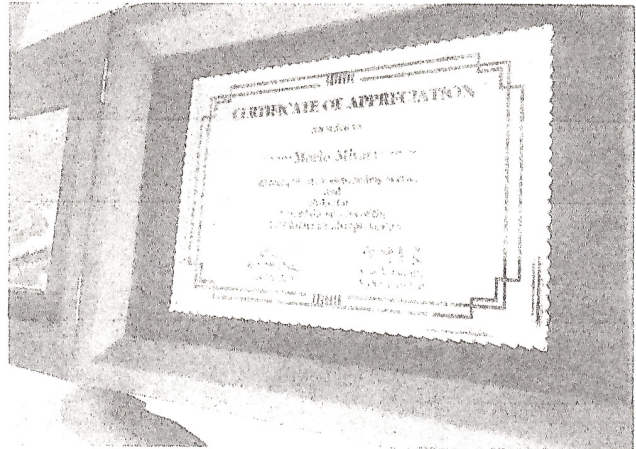
にした言葉「悲観的に準備し、楽観的に対処せよ」。日本も災害大国でもあり、国を取り巻く状況も増々困難な状況に置かれている事も事実だ。起きうる最悪の事態を想定してそれに備え、一朝事あれ

えさせられてしまう。北京パラリンピックでも訴えかけられる世界人口の15%近い人口が、何がしかの障がいと共に生活する実態が伝えられ、共生する社会が強く求められている。障がい者自身が対話の進行役となって進める障害学習での障害

起きうる最悪の事態を想定できる知識が求められている

「5-110」の問題。平等研修で使われる算数の問題ならもちろん誤りだが、障がいの研修では、5人家族のうち1人が車いすだった場合は、家族全員で出掛ける事ができないので正解。車いすです

人全員が出掛ける事がバリアフリーな環境が整った観光地なら、5人全員が訪れると。障がい者だけの課題と捉えず地域全体が取組めば、行きたくなるバリアフリーな観光地と入は評価するはずだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



バラ関係資料の収納箱に記憶にない感謝盾。過ぎし時の長さを実感する